

平成26年度事業報告

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

[総括]

- # 公益法人移行に関する法律に基づき、所管は外務省から内閣府に移行したが、定款に基く事業内容は全て外務省が関与するものであり、事業の実態は従来と変わりはない。

平成26年度収支決算の結果は、収入279,740,339円に対し、支出は271,190,304円で8,550,035円の黒字を計上しました。その結果、正味財産の期末残高は74,108,858円となりました。

- # 公益目的支出計画については、法人移行時の公益目的財産額が73,485,698円であったのに対して、26年度の実施額は21,342,713円、今期末の段階で、36,273,012円を計画に沿って実施済みです。

- # 事業内容を展望すると、自治体が保有する消防自動車、救急車、塵芥収集車などを整備し直して開発途上国に贈与する、いわゆるリサイクル援助事業が順調に拡大しており、26年度は24件、15カ国に85台贈与することができました。

事業規模は210,720,500円に上ります。

また在外公館の保守管理事業については、26年度分本体が入札に失敗し、臨時的事業のみであったため収益はきわめて限定的でした。

- # 安定的な経営状態を確保するためには、①一般社団法人として財政の基礎となる法人の会費収入が管理費のわずか10%未満という現状を改善すること。②途上国へのリサイクル援助事業の更なる拡大発展を図ること。③公益法人として相応しい新規事業の起業につとめること。そのために民間有志からスポンサーを募って資金調達をはかること一が喫緊の課題であります。

[公益目的事業／継続事業]

1. 国際知識に関する普及及び調査研究事業

月例講演会の開催 — 国際情勢の研究と外交政策の広報

原則として毎月一回、日本記者クラブにおいて国際問題講演会を開催している。講師は主として外務省の幹部を招いて実施しており、外交政策の普及に努めている。26年度の開催実績は下記の通り。

[平成26年度]

日付	例会名	講師肩書き	講師氏名	演 題
5/26	5月例会	外務省北米局長	富田 浩司 氏	オバマ米大統領訪日の成果と米国の戦略
6/23	6月例会	外務省欧州局 中・東欧課長	中村 亮 氏	クリミア問題を統括する
7/18	7月例会	外務省 中東・アフリカ局長	上村 司 氏	“アラブの春”は終わったか
9/26	9月例会	内閣官房内閣審議官兼TPP政府対策本部首席交渉官首席交渉官	鶴岡 公二 氏	TPP交渉の現状と今後の課題
10/29	10月例会	外務省 アジア大洋州局 南部アジア部 部長	山田 滝雄 氏	これからの日印関係
11/28	11月例会	外務省 中東・アフリカ局長	上村 司 氏	その後の『イスラム国』と中東情勢
12/22	12月例会	外務省 外務審議官	杉山 晋輔 氏	日本外交とアジア政策 ～一連のアジア首脳会議を振り返って
2/4	新年例会	外務省 事務次官	齋木 昭隆 氏	2015年の日本外交の課題
3/2	3月例会	駐中国・特命全権大使	木寺 昌人 氏	大使が見た中国

調査研究

26年度は外務省国際協力局より、「2013年（暦年）日本のNGOによる開発援助実施調査」の受託を受けた。外務省から国際機関である経済協力開発機構（OECD/DAC）へ提出される資料として、約1300の団体へ調査票を送り、当該年における開発途上国支援実績をとりまとめた。同調査は、見積合せにより委託先が採用されており、過去にも何度か受託実績がある。

2. 在外公館支援に関する事業

外務省の入札案件であるが、当協会の恒例事業となっている。

在外公館施設におけるエンジニア派遣業務 2件を受注

自家発電電装置保守点検専門技術者派遣業務 1件を受注

26年度は、計9名のエンジニアを23カ国（27公館）に派遣している。

派遣実績・国名及び公館名：

【アジア・大洋州】（18公館）

インド：インド大、チェナイ総、ムンバイ総、インドネシア：スラバヤ総、デンプサル総、マダン総、スリランカ：スリランカ大、韓国：韓国大、ネパール：ネパール大、バングラデシュ：バングラデシュ大、

東ティモール:東ティモール大、フィリピン:フィリピン大、ベトナム:ベトナム大、ミャンマー:ミャンマー大
 ラオス:ラオス大、ミクロネシア:ミクロネシア大、マーシャル:マーシャル大

【中南米】（8 公館）

キューバ:キューバ大、グアテマラ:グアテマラ大、コスタリカ:コスタリカ大、パナマ:パナマ大、パラグアイ:パラグアイ大、
 ベネズエラ:ベネズエラ大、ホンジュラス:ホンジュラス大、トリニダード・トバゴ:トリニダード・トバゴ大

【欧州】（1 公館） ロシア:ウラジミール大 【アフリカ】（1 公館） コンゴ(民):コンゴ(民)大

3. 海外援助に関する事業

リサイクル援助

日本国内で役割を終えた消防自動車や救急車、塵芥収集車などを自治体から譲り受け、整備し直して開発途上国に寄贈している。

26 年度は別表のとおり、15 カ国に 24 件、85 台の車両を寄贈した（内訳：消防車 47 台、救急車・緊急移送車両 33 台、塵芥収集車 5 台）。その他資機材としては、病院用ベッド 95 床、ベッドマットレス 41 枚、車椅子 165 台および介護資機材、防火服 93 セット等を送ることができた。また、このうち 6 案件については機材到着時に技術者を派遣して短期研修を行う。

特にアフリカからの要請が増え、エボラ出血熱の感染が広がるリベリア、シエラレオネ、ギニアの 3 ヶ国へは、現地日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により、計 19 台の救急車・患者搬送用車両を緊急空輸した。発送時に成田空港において、駐日大使や消防庁長官の臨席を得て出発式を行い、多くのメディアに取り上げられた。

（表内、*印は短期研修を実施）

国名	契約時期	要請団体	提供機材
ラオス	27 年 3 月	治安維持省	*消防車 19 台、救急車 3 台、防火服 93 セット
キリバス	26 年 11 月	保健省	救急車 1 台
サモア	27 年 2 月	サモア消防サービス局	消防車 4 台
ミクロネシア	27 年 2 月	ソケース地区（ポンペイ州）	*塵芥収集車 1 台
ミクロネシア	27 年 2 月	キチ地区（ポンペイ州）	*塵芥収集車 1 台
ミクロネシア	27 年 2 月	ポンペイ州保健局	救急車 1 台
レバノン	26 年 12 月	開発・民主・ガバナンス・センター	塵芥収集車 3 台
コートジボワール	26 年 7 月	トレッシュビル病院	車椅子 165 台、ベッドマット 41 枚、歩行器・杖等
シエラレオネ	26 年 10 月	保健省	救急車・緊急車両 6 台、病院用ベッド 47 床
リベリア	26 年 10 月	保健福祉省	救急車・緊急車両 7 台、病院用ベッド 48 床
ギニア	27 年 1 月	保健省	救急車 6 台

コンゴ民主共和国	27年2月	キンシャサ市	*消防車5台、 タンク1台
コンゴ民主共和国	27年2月	ルブンバシ市	*消防車5台、 タンク1台
モーリタニア	27年3月	消防庁	消防車4台、救急車2台
アルゼンチン	27年1月	アルミランテ・ブラウン市義勇消防隊	*はしご車1台
アルゼンチン	27年1月	ヘネラル・ラ・マドリッド市義勇消防隊	消防車1台
アルゼンチン	27年1月	アジェン市義勇消防隊	消防車1台
アルゼンチン	27年2月	ピラ市義勇消防隊	消防車2台
アルゼンチン	27年3月	サン・フェルナンド義勇消防隊	消防車2台
エルサルバドル	26年8月	エルサルバドル消防隊、保健省	消防車1台、救急車1台
エルサルバドル	27年3月	エルサルバドル消防隊	消防車2台
ジャマイカ	27年3月	セント・ジョン・アンビュランス	救急車6台
チリ	27年1月	キンタノルマル消防団	救助工作車1台
チリ	27年1月	ペトルカ消防団	救助工作車1台

国際コンサルタント業務に関する懇談会

外務省国際協力局の幹部と国際開発コンサルタント業界との意見交換会を3ヶ月に一度の割合で実施している。ODAを効率的かつ効果的に実施するため、途上国のニーズに関する情報交換や援助の進め方について議論が交わされている。

翻訳事業

平成26年度も地方自治体、学校法人、企業などから翻訳業務を受託した。

[その他の事業]

機関誌「日本外交協会報」の発行

日本外交協会の会報は、例会の行われた月に講師の講演内容を中心に編集して発行している。外交は国民の支援と協力があってはじめて成果をあげることができるという観点から、可能な限り外務省の政策広報に力を入れている。配布先は外務省、在外公館、自治体、関連団体など。

学生会議、シンポジウムなどへの後援、協力

日ロ学生会議、日韓学生会議など二国間の学生が一同に会して議論し、友好を高める活動を設立以来、支援しているほか、国際交流団体などが実施するイベントを支援している。

以上